



岐阜県支部だより

○巻頭言

○支部研修会報告

・記念講演会・夏季研修会報告

・学校カウンセラーコーナー

巻頭言 「今後を見つめる ～ある資料から思うこと～」

岐阜県支部事務局長 小笠原 淳

令和7年9月5日に、中央教育審議会教育課程企画特別部会で論点整理(素案)が出されました。その資料から見てくる近年の学校教育相談に関わるキーワードについて考察したいと思います。

第三章 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方(4) 個別の児童生徒に係る教育課程の編成・実施の仕組みの項の中で、近年の取組状況として、「校内外の教育支援センターの設置数は増加傾向である」こと、「原則学校単位で特別の教育課程を編成・実施できる『学びの多様化学校』の設置が進んでいる」ことが挙げられています。一方、生じている課題として、「校内外の教育支援センターは、居場所機能のみならず、学習意欲を高め、資質・能力の向上に繋がる指導の充実が課題となっている」こと、「現状、個別の指導計画がないため、組織的・計画的な指導が確保されていないケースがままある」こと、特別の教育課程の制度がないため、下学年の内容を学んでも、原籍級の教育課程に基づく評価を行わざるを得ない面がある」ことが挙げられています。

教育支援センターや学びの多様化学校の充実が成果として取り上げられているのは、現場で働いているものからしても納得でした。個別の指導計画については、各学校で作成が進んでいる印象をもっていたのですが、課題として取り上げられているのに少し驚きを感じました。

この資料の最初に、次期学習指導要領に向けた今後の検討の基盤となる基本的な考え方がまとめられており、その中に**多様性の包摂**という方向性が記

されています。不登校児童生徒に加えて、**特定分野に特異な才能のある児童生徒、日本語指導**が必要な児童生徒も取り上げられており、今まで以上に、児童生徒の特性に応じた指導・援助の在り方が問われてくると感じました。

以上のような取り組み状況を踏まえて、「個々の不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を必要に応じて編成・実施可能とする仕組みを新設する方向で検討すべき」とまとめられています。

対象となる児童生徒としては、年間30日以上欠席を一つの参考としつつ、具体の判断は学校や教育委員会が児童生徒の実態等を踏まえ総合的に行うべきとし、特別の教育課程の内容・授業時数は、柔軟性を損なったり、過度な負担が生じたりしないよう配慮しながら、校内外の教育支援センター等と連携して個別の指導計画を作成する方向で検討するようにまとめられています。また、特別の教育課程が実施される場所校内教育支援センターを含む学校内のみならず、一定の要件を満たした学校外の教育支援センターも対象とし、具体の運用を検討すべきとされていました。

最後に、育みたい子供の姿として、**自らの人生の舵取りすることができる**ことが強調されていました。自己決定、自己実現などの言葉がより大切にされていくのかもしれませんが、今後、これらの内容が討議を経て変化していくと思います。しかし、私はこれからも、今まで通り大切にしていこうもの、新しく充実させていくもの、両方を大切にしながら、目の前の子供たちの幸せのために頑張っていこうと思いました。

☆支部研修会報告☆

◆定期総会・記念講演会

開催日：令和 7年 6月 14日（土）

会 場：南部コミュニティーセンター

◎記念講演会 14：00～15：45

『居場所と絆づくり』を大切にした

温かな学級経営の在り方

岐阜聖徳学園大学 教授 福地 淳宏 先生

教育の現場を長く勤められた福地先生から、「学級経営」とは何か、「居場所と絆」とは、、、を視点に、「魔の6月」をどう乗り越えようと日々奮闘している先生方へのエールとなるご講話をいただきました。

学級経営とは、

「烏合の衆」を「チーム」にしていくため、児童生徒が心理的に安定して帰属できる学級づくりを通して、個々の発達を促す日々の営み

であると掲げられ、一人の人間がどう育ち、他者とどう関わり合っていくかに道筋を作っていくことが重要である。「理想の学級集団」とは、自治力が発揮されている集団と言える。その必要条件としては、居場所と絆が織物の縦系と横系のように編まれていることが理想である。

縦系・居場所…ルールの確立

「教師と児童・生徒」という適度な距離をもった関係づくり。しつけや返事、あいさつ、言葉づかい、学級内ルールなど。教師と児童・生徒との縦のつながりを生み出し、信頼関係を結ぶもの。



横系・絆…リレーションの確立

教師と子ども・子ども同士のフラットな心の通い合い。一緒に遊ぶ。良い点を伝え、ほめ、励ます。笑い合い、のびやかな雰囲気を作り出し、好ましい人間関係を作る。

この織物は一朝一夕に出来上がる物ではなく、必ず段階がある。集団作りには道筋があるのである。

〈1学期〉

「烏合の衆」は願いを共有し、ルールを設定していく中で所属感を育てていく。

〈1学期下旬～2学期中旬〉

徐々にルールが定着し、着実な高まりを見せるようになる。しかし、慣れや集団への不適応などの問題も表面化してくる中で、集団を客観的に振り返り、自己理解及び他者理解の機会を得て問題の解決が図られる心地良さを体験していく。

〈2学期中旬～3学期〉

集団は、自治的な集団へと成長し、確実な高まりを見せる。

居場所と絆作りに欠かせない心理的安全性

基盤①・・・クラスの中にきちんとしたシステムがある。

学級の「規律」と「秩序」を作り出す。

基盤②・・・「安心」の基地であること。

学級への「愛着」「安心感」を作り出す。



「教師の一声が子どもの一生を左右する!」

「失敗した時こそ、子どもの気持ちに共感し、結果よりも努力・姿勢・過程を認め・励まし・勇気付ける!」



『「愛ある一言」を是非「I(アイ)メッセージ」で伝えましょう。そうすることで、子どもの自己有用感を引き出し、それが子どもの居場所と絆を作るのです。』

そう締めくくられた先生の言葉に6月を乗り切るエールをいただきました。 (文責：中村美香)

《参加者の声》

・ たくさんの資料と教育現場で経験された実体験そして、生徒側の気持ちなど、大変具体的な内容で、現場ですぐ実践したいと思いました。またうま

くっていないときに Big Chance なんだという考えや“中間層”を忘れないように大切にすることは学級経営だけに留まらず、様々な人間関係や集団で生きると感じました。

- ・ 学校や学級に居場所を感じず不適応を起こす児童生徒が増えている現状がある。(中略) 誰にも『「居場所」がある誰もが「絆」を感じている』という言葉がとても印象的でした。教師側が教育相談の本質をもち、子ども一人一人に対応することが大事ということがとても感じました。

◆夏季教育相談研修会

開催日：令和7年8月24日（日）

場所：岐阜大学教育学部附属小中学校

実施形式：対面・Web 開催

日程：午前の部 10：15～11：45

：午後の部 13：15～16：45

講演：

「困っている子、困らせる子の

見立てと手立て～3つのメガネを使って～」

こころとそだちのクリニック あすなろ

院長 加藤 智美先生

加藤先生は児童精神科医で、長きにわたってたくさんのお子さんを診察されておられます。子どもたちの気になる姿や問題と思われる行動をどう捉えるか、発達特性や心理面などについてお話いただきました。

まず驚いたのは、「クリニックに来院する子どもの多くに『傷つき体験(トラウマ)』がある。」ということでした。「傷つき体験」になりうるものとして、「そだちの問題(愛着形成やマルトリートメントなどの虐待等)」「読み書き障害などの発達に関わること」が挙げられました。気になる行動の見立て方(3つの視点)はわかりやすく、子どもを理解する手がかりとして、すぐ

◆3つの視点(メガネ)

①発達特性(神経発達症)

②アタッチメント(愛着)

③トラウマ



に活用できるものだと思います。

また、「発達特性のある子どもは『こころのケガ』を負いやすいこと」「学校はトラウマになる出来事であふれているということ」を念頭において、子どもの様子を注意深くみていくことが必要だと思います。

後半は、WISC の研修をしました。「WISC の報告書は見たことはあるが、見方がわからない。」という声をよく聞きます。講座では「データの見方」、「5つの指標」など一通りの見方を学んだ後、グループに分かれ検査報告書(仮想)を見ながらアセスメントの交流をしました。参加者からは、「指標の意味がよく理解できた。」「アセスメントの方法が学べた。」などの感想がありました。

加藤先生の講話を聴きながら、学校が心がけるポイントとして、「こころのけがを負った子どもに対して現状よりも傷つけないようにすること」「WISC は検査をして終わりではなく、どう活用し支援につなげていくかという視点を持ち、校内で情報共有を確実に行うこと」などを教えていただきました。子どもの健やかなこころを育てていく「仲間」として、医療の立場から学校関係者へ応援のメッセージをいただいたような気持ちになりました。

(文責：佐々木 文枝)

《参加者の声》

- ・ 子どもと関わる姿勢として、子どもが安心して「責められない・評価されない」と感じる事が大切。それを続けることが大切というところが心に残りました。
- ・ 愛着形成を促すこと、特性に気づき環境を整えること、トラウマ体験を予防することの3つの視点のお話がとても分かりやすかったです。ケース検

討も勉強になりました。

- ・「助けよう」「何とかしよう」と思わないで、現状維持を意識することで、トリガーになることを回避したり本人のタイミング(ニーズ)を引き出したりできる。自分がトラウマを与えないで子どもの安全基地になれるように心がけていきたいです。
- ・「今ここが安全であること」は子どもだけでなく、すべての人にとって必要です。学校教育相談という立ち位置にある以上、社会的自立に向けて学校ができること、やれることを考えると、命や体の危険を感じて救いを求めてくる医学的な立場とは異なることが当然起き得ます。その違いについては、踏まえながら「居場所」づくりを考えていきたいです。

学校カウンセラー委員会より

今年度、岐阜県支部学校カウンセラー委員会では、大きく2つの取組を実施しています。それは「学校カウンセラー研修会」と「校内研修講師リスト」の作成です。今回はこれらの活動について紹介します。

●学校カウンセラー研修会

学校カウンセラー研修会は年間3回(9月、11月、1月)に実施しています。参加者は岐阜県支部に所属する学校カウンセラーを基本としています。講師を招いた講話型の研修を行うこともありますが、多くは事例検討による研修を行っています。一定の知識と経験をもった学校カウンセラーが集まった検討会では、一歩踏み込んだ内容まで議論が及んだり、具体的な対応策が見つかったりする事も少なくありません。

学校カウンセラーを取得していないという方は、是非、取得を目指していただき、一緒に研修しませんか。

●校内研修講師リスト

岐阜県支部所属の学校カウンセラーには、様々な立場や経験、得意分野をもってみえる方が多数みえます。中には学校現場等で研修会の講師を務めてみえる方もあります。皆様の所属先で「教育相談に関する研修会を実施したいけど、誰か講師を頼めそうな人がいないかな」という際にご活用いただけるように、校内研修講師リストを作成しています。講師リストは定期的に会員の皆様には紹介させていただいていま

すが、岐阜県支部HPにも掲載しています。

ぜひ校内研修の充実にお役立てください。

岐阜県支部の学校カウンセラーを研修会の講師として依頼されたい場合は、まずは岐阜県支部事務局へご相談ください。

(文責:学校カウンセラー委員会 郷田 賢)



☆学校カウンセラー おすすめの1冊☆

「トラウマインフォームドケア “問題行動”を捉えなおす援助の視点」

支援者が出会う“問題行動”の背景にはトラウマという「こころのケガ」があるかもしれない。児童福祉、教育、医療、矯正などのあらゆる現場で、「非難・叱責」を「理解・ケア」に変える、対人援助の新しいアプローチ。(帯より引用)

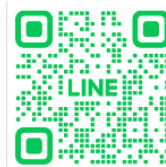


著者:野坂祐子
出版社:日本評論社
(2019/12/24)
定価:2,420円

☆夏季研修会の中でもご紹介のあった1冊です。

☆事務局より ☆

日本学校教育相談学会岐阜県支部
LINE公式アカウント誕生!
お友達追加、お待ちしております。



学校教育相談学会岐阜県支部会報第35号

(2025年10月4日発行)

発行:日本学校教育相談学会岐阜県支部

編集:日本学校相談学会岐阜県支部広報委員会

ホームページ:<http://jascg-gifu.net/>